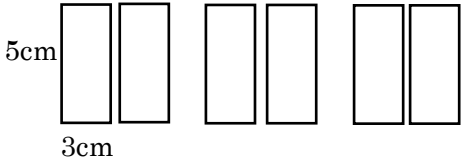
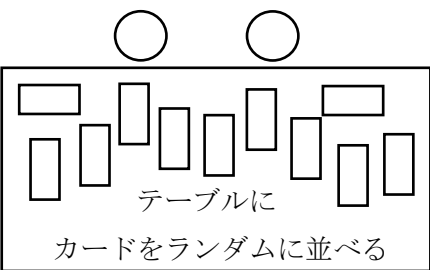


自作教具の活用事例

【作品名】 ペアで漢字	【学校名】 日立市立日高中学校
【活用できる領域・教科等】 書字障害・国語	【制作者名】 泉 崇志
【制作の意図】 へんとつくりが逆になってしまう生徒が複数在籍しているため、実際に自分の手で操作し視覚的に確認することで、正しい漢字を定着させるようにする。 会話の苦手な生徒が在籍しているため、コミュニケーションをとる手段として制作した。	【使用方法】 ペアになり、互いに向かい合って4人で行う。ペアと必ず会話を交わして、へんとつくりを組み合わせる。会話をせず組み合わせたものは無効となる。
【制作上の工夫】 自分の手で組み合わせ、互いに確認するので、誤りに気づきやすくなる。 漢字検定に出る範囲の漢字にしぼって作ること、効率の良い対策になる。	【見取り図】  5cm 3cm 厚めの画用紙を2枚並べてカードを作る  テーブルに カードをランダムに並べる ペアになり座る
【写真】 	【使用効果と応用発展】 ・会話をしなければ完成が認められないので、コミュニケーション力をつけることにつながる。 ・漢字検定を受検する契機となった。 ・自分たちでカードを作成する意欲につながった。 ・カードを1枚抜いたり、不要なカードを1枚追加したりして行くと、より活発な会話が期待できる。
【材料・材質・部品等】 厚めの画用紙 ペン 漢字検定にしぼる場合は範囲の漢字表	